



2022年3月期 第2四半期
決算補足資料

証券コード:6908

2021年11月4日

イリソ電子工業株式会社



-  **I . 2022.3期 第2四半期連結決算概要**
- II . 2022.3期 連結決算見通し**
- III . トピックス**

1. 2022年3月期第2四半期累計 業績のポイント



- ・売上：自動車減産影響継続するが、パワートレイン、コンシューマー、インダストリアル市場は堅調に伸長。上半期での過去最高売上を更新。
- ・営業利益：原材料と輸送費高騰影響を、売上増と原価低減で改善し増益。

■売上高：21,978百万円（前年同期比145.8%、期初計画比+1,478百万円）

オートモーティブ	コンシューマー	インダストリアル	合計
17,155百万円 (143.5%)	2,692百万円 (136.8%)	2,130百万円 (186.5%)	21,978百万円 (145.8%)

①オートモーティブ(車載)市場：

- ・電動化関連の車載パワートレイン分野が前年同期比240%と堅調。
- ・半導体不足等で自動車減産が継続、当初計画に対し約-11億円の影響。

②コンシューマー市場：ゲーム、テレビ向けの好調維持、OA機器向け回復。

③インダストリアル市場：FA機器向けが中国向け継続好調。

■営業利益：2,526百万円、営業利益率11.5%

(前年同期比+2,353百万円、期初計画比-473百万円)

①原材料(金、銅、樹脂)と輸送費高騰影響約-12億円(営業利益率約-5.6%)、 期初計画比では約-7億円の影響。

②追加収支改善、2億円強の改善を実現。

2. 2022年3月期第2四半期連結業績(前年同期比)



単位:百万円

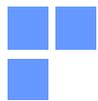
	21.3期 第2四半期 累計	22.3期 第2四半期 累計	前年同期比
売上高	15,069	21,978	6,908 145.8%
営業利益	173 (1.2%)	2,526 (11.5%)	2,353 1457.0%
経常利益	76 (0.5%)	2,458 (11.2%)	2,381 3201.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	8 (0.1%)	2,168 (9.9%)	2,160 26641.2%
EPS	0.35円	92.03円	
為替レートの 期中平均	ドル:106.68円 ユーロ:121.36円 元: 15.21円	110.18円 130.97円 17.04円	3.50円 9.61円 1.83円

3. 売上高詳細(市場別)



単位:百万円

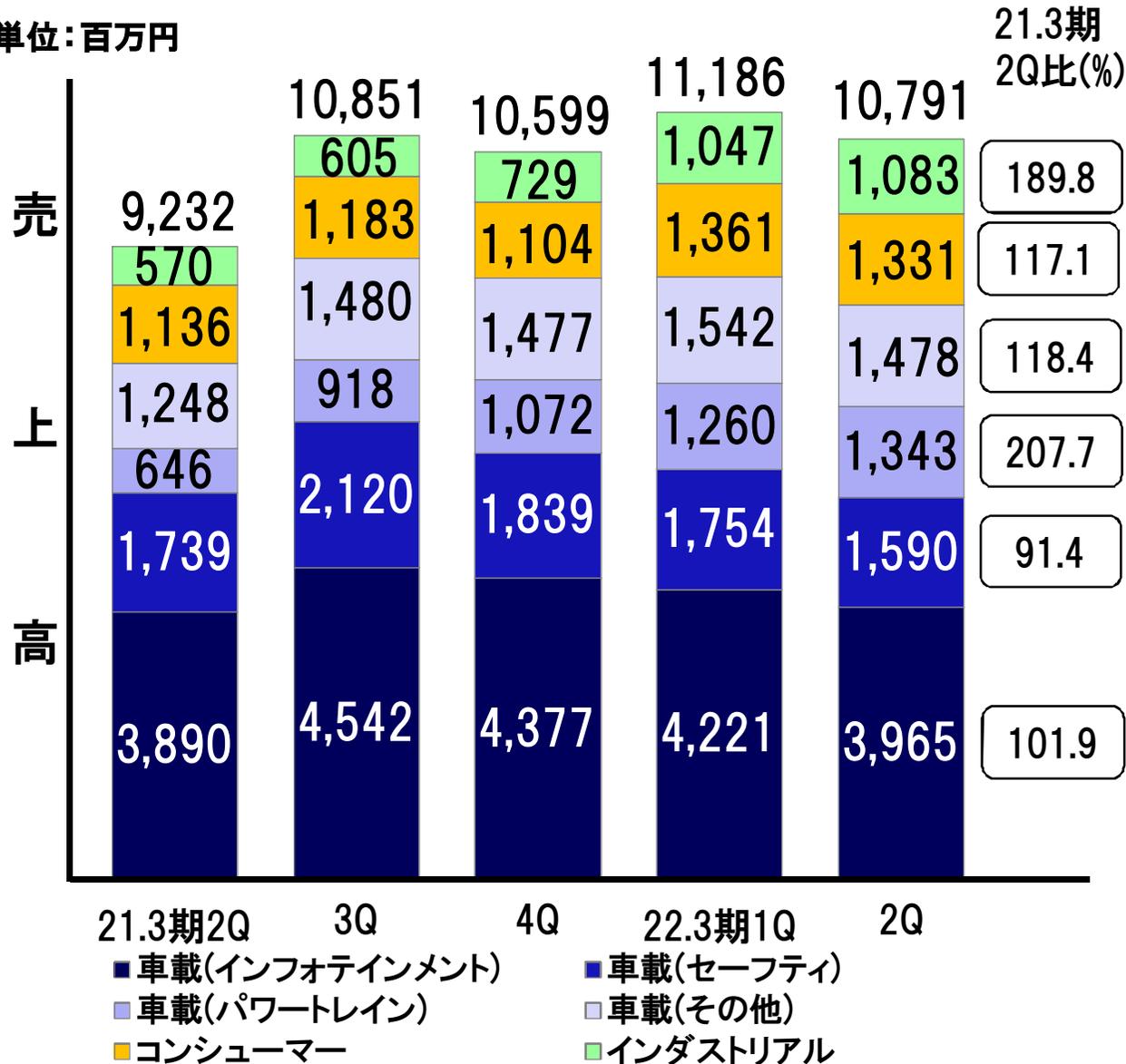
		22.3期 第2四半期累計	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		17,155	143.5%	78.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の新型コロナによる低迷から大幅回復 ・パワートレイン分野は電動車の増加を背景に、前年同期比240%と好調 ・半導体不足の中、パワートレイン分野の貢献もあり上期グローバル生産台数の前年同期比5.5%増より上回る43.5%増
区分	インフォテインメント	8,186	129.0%	37.3%	
	セーフティ	3,344	126.5%	15.2%	
	パワートレイン	2,603	237.4%	11.9%	
	その他	3,021	161.4%	13.7%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TVなど)		2,692	136.8%	12.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での巣ごもり需要により、ゲーム機向け、テレビ向けが好調を維持 ・OA機器向けも回復
インダストリアル (産業機器など)		2,130	186.5%	9.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・中国向けのFA関連機器の需要増、5G基地局向けでの新規搭載により好調
合計		21,978	145.8%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・海外比率75.2%



4. 市場別売上高(四半期推移)



単位: 百万円



インダストリアル
 ・PLCやサーボアンプ向けが好調を維持

・四半期最高売上更新

コンシューマー

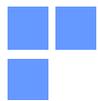
・ゲーム向けが堅調

車載全体 111.3

・22.3期1Q比:

半導体不足や東南アジアでのコロナによる部品供給不足がインフォテインメント、セーフティ分野にありマイナス

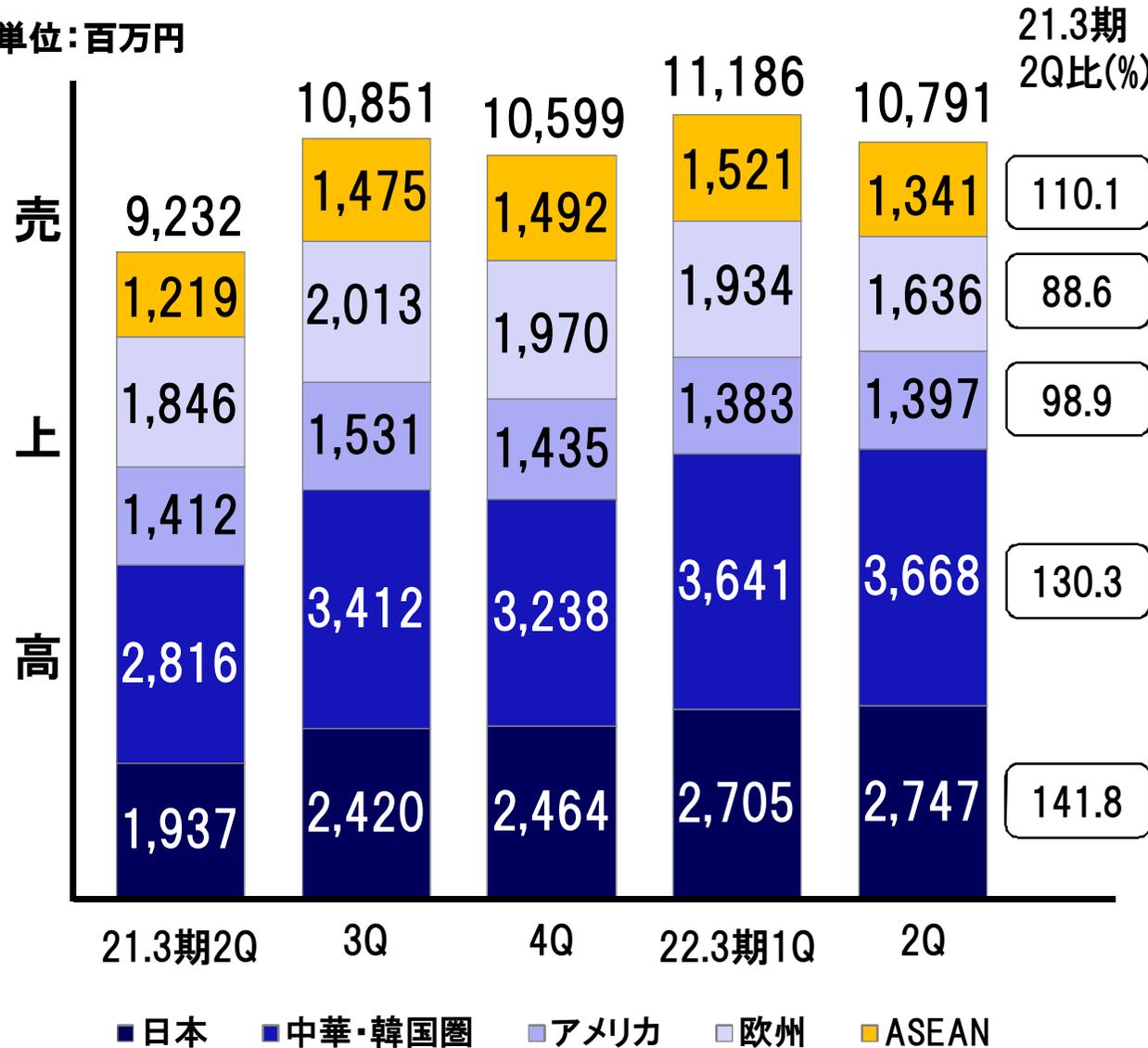
・電動車の市場拡大により、パワートレイン分野は好調を維持し、四半期での最高売上を4Q連続更新中。特にバッテリー関連向けが牽引



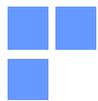
5. 地域別売上高(四半期推移)



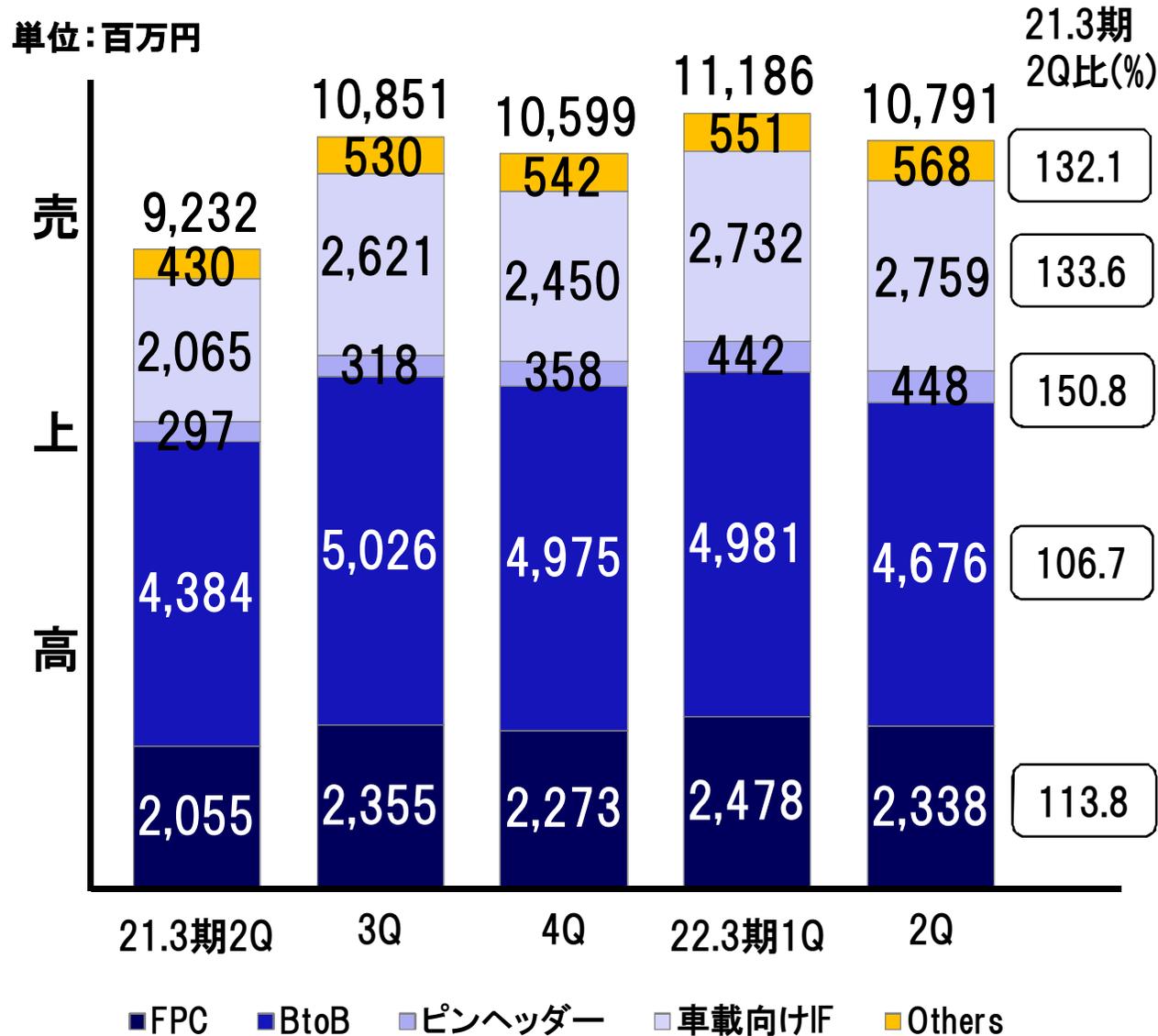
単位：百万円



- ASEAN(旧シンガポール+タイ)**
 - ・22.3期1Q比：半導体不足とコロナ影響で減少
- 欧州**
 - ・22.3期1Q比：半導体不足の影響で減少
- アメリカ**
 - ・22.3期1Q比：半導体不足の影響があるも、インフォテイク分野がカバー
- 中華・韓国圏**
 - ・パワーライン分野が支える形で増加
 - ・為替円安影響もあり、過去最高売上更新
- 日本**
 - ・インダストリアル市場が好調
 - ・過去最高売上更新



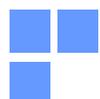
6. 製品別売上高(四半期推移)



車載インターフェイスコネクタ
 ・車載市場、パワートレイン分野での増加

BtoBコネクタ
 ・22.3期1Q比：セーフティ分野の減少の影響でマイナス

FPCコネクタ
 ・コンシューマー市場が好調で増加



7. 損益計算書(連結)(前期比)



単位:百万円

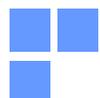
	21.3期 第2四半期累計		22.3期 第2四半期累計		前年同期比	
売上高	15,069	100.0%	21,978	100.0%	6,908	145.8%
売上原価	11,000	73.0%	14,344	65.3%	3,344	130.4%
売上総利益	4,069	27.0%	7,633	34.7%	3,564	187.6%
販売管理費	3,895	25.9%	5,107	23.2%	1,211	131.1%
営業利益	173	1.2%	2,526	11.5%	2,353	1457.0%
営業外収益	80	0.5%	45	0.2%	△35	56.1%
営業外費用	177	1.2%	113	0.5%	△63	64.0%
経常利益	76	0.5%	2,458	11.2%	2,381	3201.3%
特別損益	△45	△0.3%	△92	△0.4%	△47	205.4%
税前利益	31	0.2%	2,365	10.8%	2,334	7464.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8	0.1%	2,168	9.9%	2,160	26641.2%
E P S	0.35円		92.03円		-	
為替レート	106.68円／		110.18円／		3.50円／	
(ドル／ユーロ／元)	121.36円／15.21円		130.97円／17.04円		9.61円／1.83円	

8. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

	21.3期		22.3期 第2四半期		前期末比	要因
流動資産	35,209	55.1%	36,146	54.7%	937	現預金 $\Delta 1,200$ 売掛債権 362 商品及び製品 1,665
固定資産	28,732	44.9%	29,901	45.3%	1,168	有形固定資産 683
資産合計	63,941	100.0%	66,047	100.0%	2,105	
流動負債	7,956	12.4%	8,800	13.3%	844	買掛債務 276 未払金 295
固定負債	1,254	2.0%	1,141	1.7%	$\Delta 112$	
負債合計	9,210	14.4%	9,942	15.1%	731	
株主資本	52,176	81.6%	52,915	80.1%	738	純利益 2,168 配当 $\Delta 1,183$
その他の 包括利益累計額	2,171	3.4%	2,837	4.3%	666	為替調整勘定 669
非支配株主持分	382	0.6%	351	0.5%	$\Delta 30$	
純資産合計	54,731	85.6%	56,105	84.9%	1,374	1株純資産 2,370.19円 (前期末 2,306.16円)
負債・純資産 合計	63,941	100.0%	66,047	100.0%	2,105	

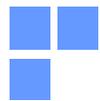


9. キャッシュフローの状況(連結) (前年同期比)



単位:百万円

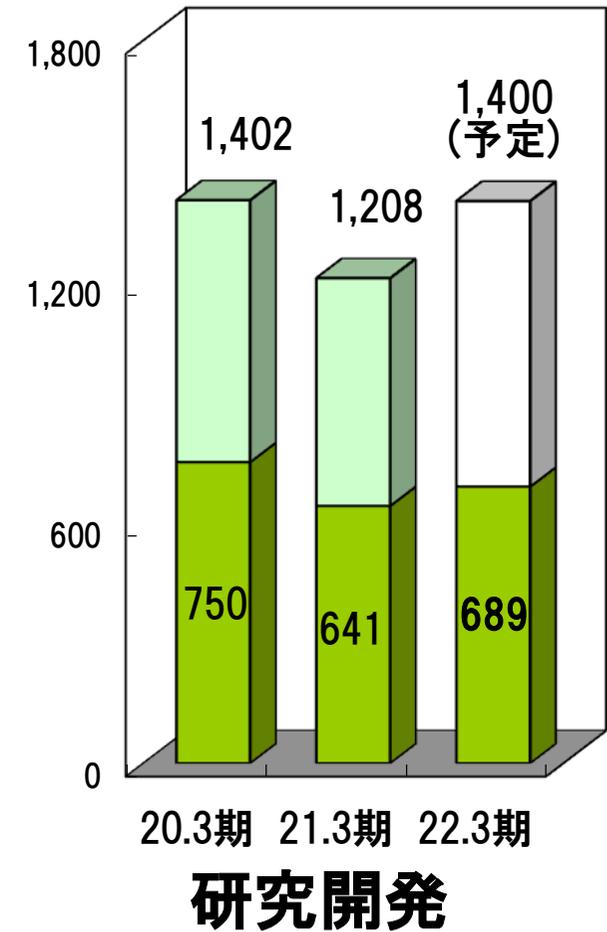
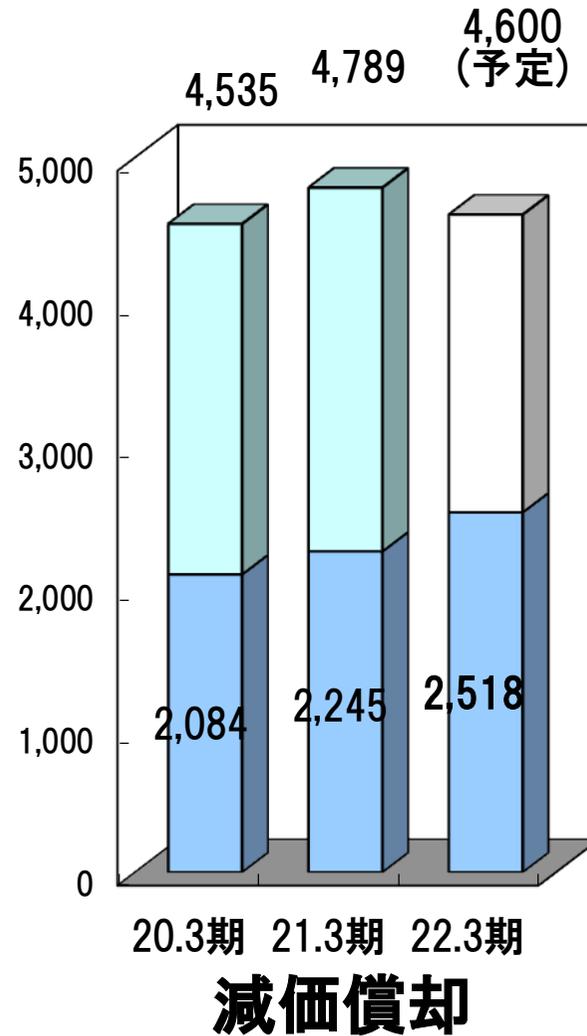
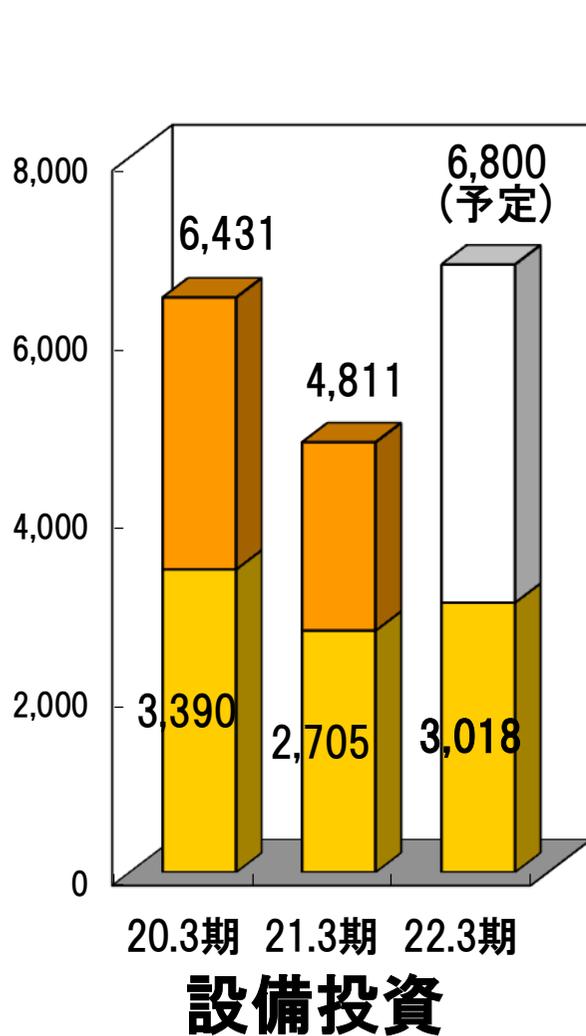
	21.3期 第2四半期	22.3期 第2四半期	増減
営業キャッシュフロー	2,852	3,363	510
当期純利益	31	2,365	2,334
減価償却費	2,245	2,518	272
運転資金増減(△は増加)	337	△1,698	△2,036
投資キャッシュフロー	△2,720	△3,035	△315
有形固定資産	△2,670	△2,717	△47
フリーキャッシュフロー	132	327	195
財務キャッシュフロー	△1,295	△1,576	△280
配当金	△1,183	△1,183	0
現金及び現金同等物期末残	12,571	13,059	488



10. 設備投資・減価償却・研究開発



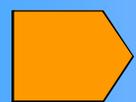
単位：百万円



注：各グラフの数値は、下段に第2四半期累計の実績、上位に通期での実績(22.3期は予定)を記載



I . 2022.3期 第2四半期連結決算概要

 II . 2022.3期 連結決算見通し

III . トピックス

1. 2022年3月期 計画(前期比)



通期見通しは、部品不足影響により車載市場の売上見通しが不透明なため、
 期初計画を据え置き

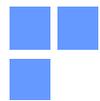
単位：百万円

	21.3期 累計	22.3期 計画	前期比
売上高	36,520	42,000	5,479 115.0%
営業利益	2,900 (7.9%)	6,700 (16.0%)	3,799 231.0%
経常利益	2,970 (8.1%)	6,600 (15.7%)	3,629 222.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,141 (5.9%)	4,800 (11.4%)	2,658 224.1%
EPS	90.89円	203.68円	
為替レート 期中平均	ドル：106.17円 ユーロ：123.73円 元：15.63円	105.00円 127.00円 16.00円	△1.17円 3.27円 0.37円

施策	効果		
	上期	下期	通期
①生産効率改善、運搬費等のロスコスト削減			
②内製化推進、資材費値上げの抑制	約2億円	約13億円	約15億円
③間接費削減他			

2. 事業リスクへの対応

リスク	対応
①半導体を始めとした部品供給不足による自動車生産の生産調整と急激な生産立上げ対応	①21年4月より推進のBCPによる安定在庫方針に基づく当社並びに顧客在庫積み増し(上期完了)
②コロナによる工場の操業停止または低下	②マルチ生産体制の構築(今期完了予定)
③中国電力制限による工場操業低下	③車載市場の売上減リスクに対するコンシューマー市場、インダストリアル市場での売上積み増し
④原材料(金属材、樹脂)価格高騰	①短期的対応として、追加収益改善15億円を推進 <ul style="list-style-type: none">・ロスコスト削減、内製化推進・資材費値上げの抑制、間接費削減他
⑤原材料(金属材、樹脂)供給不足	②中期的対応 <ul style="list-style-type: none">・複数社購買、使用部材の標準化推進・輸送費単価高騰を吸収する構内マテハン、倉庫費用、梱包材等の広義での輸送費縮減
⑥輸送費単価の高騰	③ロングテール対策等プロダクトミックス改善

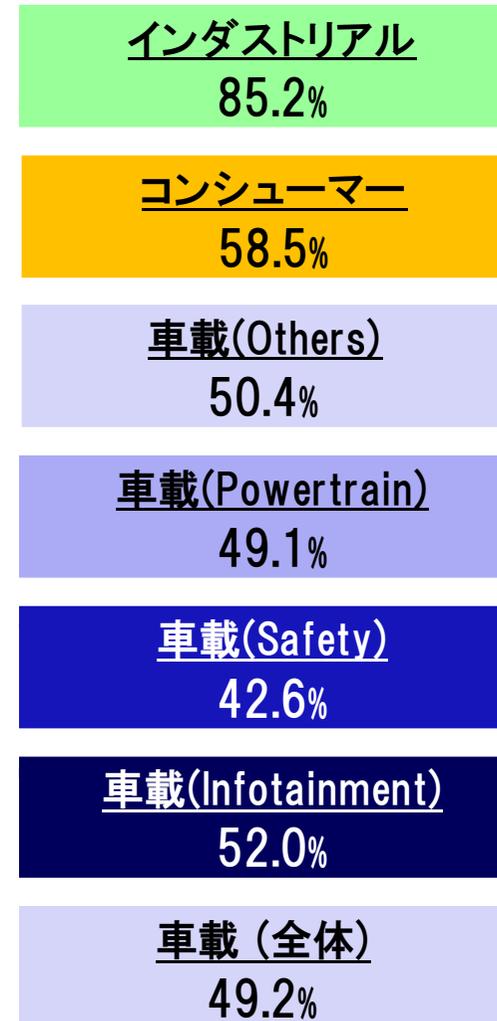
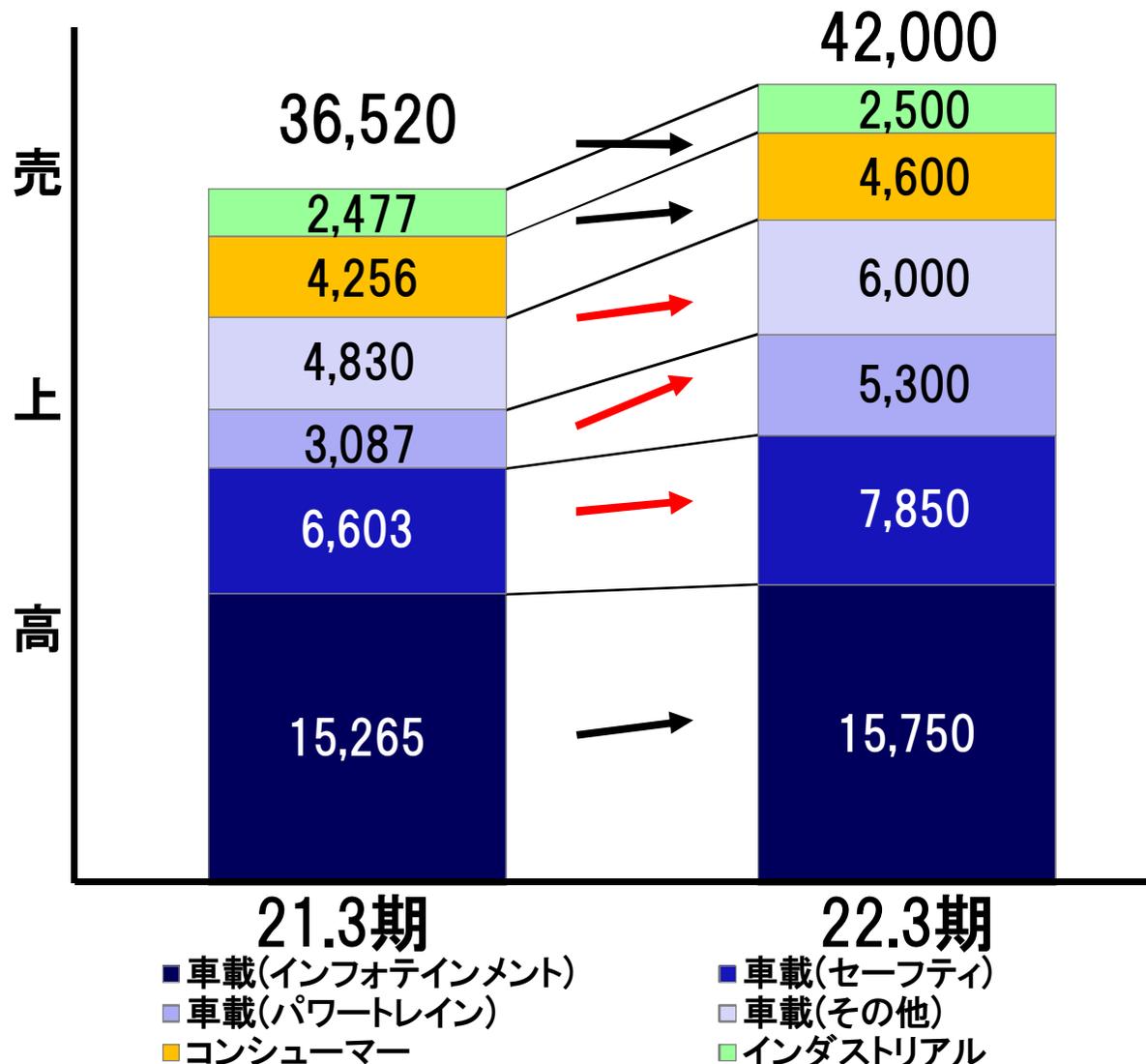


3. 2022年3月期 市場別売上高計画



単位：百万円

22.3期計画比2Q累計実績進捗率





I . 2022.3期 第2四半期連結決算概要

II . 2022.3期 連結決算見通し

III . トピックス

■「10143シリーズ」が可動BtoBコネクタとして世界初の25Gbps対応へ

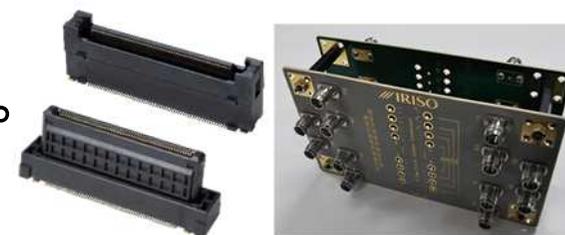
- ・昨年開発した16Gbps対応の可動BtoBコネクタ「10143シリーズ」が、通信分野では、可動BtoBコネクタ史上最高クラスの25Gbpsの高速伝送が可能へ。

※「OIF CEI-28G-SR」規格での測定時

- ・2022年内の量産準備を進めると同時に、自動運転用ECUといった車載機器や産業機器、通信分野のお客様に随時提案中。

- ・「10143シリーズ」の開発秘話はこちらをご覧ください。

(<https://www.iriso.co.jp/jp/technology/comic/>)



■「車載カメラ向けソリューション」の提供開始

- ・車両に多数使用するカメラを制御する自動運転用ECUでは、その内部接続も高速化が必要で、高速伝送対応の「10143シリーズ」が活用可能。

- ・車載カメラ本体用の高速伝送対応可動コネクタのラインナップに、ECUで使用可能な高速伝送対応可動BtoBコネクタを追加し、「車載カメラ向けソリューション」としてワンストップサービスを提供。



■中長期でのNEV市場向け売上拡大のため、日本の営業体制を強化(10/16～)

- ・主要NEV関連顧客の深耕と新規開拓に専念するチームを設置。

会 社 名	：	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	：	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	：	1966年12月
社 員 数	：	3,277名(2021年3月31日現在)
資 本 金	：	5,640百万円(2021年3月31日現在)
本 社	：	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	：	
	国内	本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
	海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	：	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工 場	：	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。